

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所 属 薬学部医療薬学科

名 前 古屋 博行

作成日 2025 年 5 月 20 日

1. 教育の責任

湘南医療大学薬学部に 2024 年4月に着任しました。一部の科目については 2022 年度薬学部開設以来非常勤講師として担当、分担してきた。これまで科目責任者として以下の科目を担当。

1年生前期「薬学入門Ⅱ(必修)」

3先生前期「医療統計学(必修)」

4年生前期「医薬品開発学(必修)」、「医療安全管理(必修)」

4年生後期「薬剤経済学(必修)」現在開講中

薬剤師として必要なコアカリキュラムの知識だけでなく、将来必要となろうであろう課題、知識を教授するため自身の新しい知識の習得に努め、熱意が伝わる講義を心がけている。また、CBT 対策として実務実習に必要な予備知識の確認を演習問題で実施している。また、以下の科目について分担教員として教育に参加することで、講義間の連携に役立てている。

1年生前期「早期臨床体験実習(必修)」

2年生前期「医療薬学チュートリアル演習1(必修)」

3年生前・後期「薬学総合プレ研究(必修)」

3年生後期「実務実習事前学習Ⅰ」

4年生前期「実務実習事前学習Ⅱ」

4年生後期「実務実習事前学習Ⅲ」

チーム医療論

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

まず、医療に携わる専門家としての倫理性や態度を養って欲しい。そして、薬剤師として患者さんのために責任をもって貢献するために学ぶことの重要性に早い段階で気付くことが望まれる。また、多様な人と協力しながら新しい経験に直面することで、自分と異なる視点や価値観があることに気づき、自分の認知パターンの弱点に気づくことが出来る。少人数グループ学習(SGD)を通じて、気づきや認知パターンの修正を行い、認知力を高めることで学習能力が向上し、幅広く膨大な薬学知識の習得が可能になると考える。技術面では生成 AI 等の人工知能分野で革命的と言える進展が認められ、医療デジタルトランスフォーメーション(医療 DX)の加速が予想される。生成 AI のメカニズムは人間の認知機能、脳の情報処理を模倣している部分もあり、認知科学の理解はメカニズム把握の一助になり得る。

一方、患者中心の医療の実践では、患者さんへの寄り添い力や多職種チーム医療が大切であり、傾聴やコミュニケーション力を高めることも重要である。自分が成りたい薬剤師の将来像を描きつつ、自分にとって足りない点は何か常に考えて知識だけでなく態度やコミュニケーションスキルについても意識して学習に取り組んでほしい。

2) 理念をもつに至った背景

医学部での教育において低学年から最終学年の国家試験対策まで、長年にわたり携わって来た。高校で生物、物理、化学について深く学習した経験のある学生は認知能力、理解力が高く、幅広く膨大な医学知識についても相互に関連付けて学習している学生を多く認めている。早い段階で認知、理解力を養うことはその後の学習効率を高めると考えている。また、スパイラル方式により複数学年で繰り返し復習することで知識の定着が認められた経験がある。薬学部の教育も医学部と同じ6年制で、習得すべき知識量が年々増加傾向を示していることから、私の授業では早期における認知能力形成とスパイラル方式に心がけて実践している。

また、兼務ではあるものの大学病院において治験・臨床研究支援業務や医療安全管理部門で薬剤師さんを始めとした多くの医療関連職と協働して業務に従事して来た経験から、多職種連携においてお互いのコミュニケーション力を高めることでチーム力向上を認めた経験から、学生さんにも SGD を通じてコミュニケーション力を高めることでチーム医療に貢献できることを期待している。

3. 教育の方法・戦略

1年生前期「薬学入門Ⅱ(必修)」は、講義が中心ですが、早期臨床体験実習で病院、薬局、介護老人保健施設の医療提供施設について見学した内容を、医療法、医療保険、介護保険法による制度面から見直すことでより深いレベルでの学習になるよう配慮している。また、2024年から実施の薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠するよう授業内容を改編した。

3年生前期「医療統計学(必修)」では、自身の理解度を確認するため5回の課題レポートを実施、また、限られた講義時間の中で余裕のある学生が自身で統計ソフトウェアを利用して理解を深められるようソフトウェアの導入等の使用法についても解説している。

特に4年生の担当科目は、薬剤の**価値(有効性、安全性、経済性)**に関連する重要なテーマであり、私の医学部、大学病院におけるこれまでの教育・研究・実務での経験を総動員して教育に臨んでいる。また、学生の知識の定着、課題解決能力の育成を目的に4年生の授業では少人数グループ学習(SGD)を取り入れている。高学年では、医薬品開発における現在の課題や医薬品安全では実際の事故事例についても考えてもらうことが重要と考え、医薬品開発学では、「ドラッグ・ラグ」、「後発医薬品不足」等の課題について考える機会を設けている。また、医療安全管理では、実際の事故事例について根本原因分析法(RCA)、4M-4Eマトリックス分析法をSGDで実践してもらい、原因の同定と対策立案について検討することでより深いレベルでの学習に心がけている。薬剤経済学でも1年次の薬学入門Ⅱで講義した医療保険制度の復習から始め、QOL評価や費用対効果分析の必要性が分かるようSGDを実施した。

一方、薬学部4年生は実務実習開始前の予備判定である CBT、OSCE があるため、その試験対策に向けた、学習進捗確認のための問題演習も授業中に実施している。

- ・ 講義資料: パワーポイント資料中心で図表も入れているが、後から見ても講義内容がわかるよう工夫している。
- ・ 補足資料: 実務にも役立つよう実際の薬の添付資料や実際例が載っている資料を引用するようにしている。
- ・ 講義: 講義については、時々学生さんに質問して理解度を確認しながら進めている。
- ・ 試験: 基本的に CBT、国家試験で標準的な 5 肢択 1 式の形式であるが、本試験、再試験のいずれかで記述式も取り入れて理解度を確認している。
- ・ 授業アンケート: アンケートの自由記載事項については、分担教員とも共有し対応するように心がけている。

さらに、2 年生の 23E グループについて若山教授と共にチュータ活動として学習や生活習慣への助言も行い、新 3 年生に移行、継続している。

4. 学習成果

- 1) 学生からの授業アンケートではある程度良い授業評価であったが、最新の CBT、国家試験問題も講義に取り入れ試験対策になるよう配慮している。
- 2) 定期試験では学習成果が十分でない学生も一部見られたが、3 年生科目の医療統計学が再履修となった 4 年生も、4 年生科目「医薬品開発学」の中で統計について復習する時間を設けることで最終的には履修済みとなった。複数学年で繰返し講義を行うスパイラル方式を心がけてゆくことで知識の定着を図る。
- 3) 薬学総合プレ研究では、これまで 18 人の学生を対象として各学生の興味に応じ、薬局でのセルフメディケーション対応、健康相談、健康教室、服薬指導を想定した課題を設定し、まとめてもらうことで課題解決能力の向上につなげた。

5. 改善のための努力

- 1) 試験勉強をどのようにしたら良いかとの問い合わせに対し、今回は定期試験対策のためのまとめ講義、問題演習を実施することで試験範囲の重要部分と試験問題例が把握できるようにした。
- 2) 授業アンケートで書かれた意見について、すぐ対応できるものについては対応している。
- 3) 薬学入門Ⅱについては、新コアカリに準拠の教科書とシラバスとの擦り合わせが出来てないため、来年度は教科書と対応した記載にする。

6. 今後の目標

短期的には、4 年生の CBT、OSCE の合格につながる内容を出来るだけ取り込むことで合格率向上につなげたい。

一方、政府は 2024 年 7 月末の創薬構想会議の中間取りまとめで政策目標として創薬につながる薬学人材養成のため大学の教育プログラムの充実が提案され、2026 年度か

ら検討が開始される次期薬学教育モデル・コア・カリキュラム改訂での見直しとして提言されている。既に「医薬品開発学」で臨床試験や創薬の流れに関する講義を行っているが、6年生で講義予定の「レギュラトリーサイエンス」では、治験・臨床試験支援についてより詳細な講義内容を検討している。同時に薬剤師国家試験対策として問題演習も実施予定である。

【添付資料】

＜シラバス(責任者科目のみ)＞

薬学部

1年生前期「薬学入門Ⅱ(必修)」

3先生前期「医療統計学(必修)」

4年生前期「医薬品開発学(必修)」、「医療安全管理(必修)」

4年生後期「薬剤経済学(必修)」

シラバス 2025 年度版

https://sums.ac.jp/pdf/department/pharmacy_syllabus.pdf